

んてき造りは国際協力事業団の指導で、ザンビアの首都ルサカから始まり、隣国にも広がっているそうで、豆たんも作っているという。

#### 4、笑福亭呂竹『寄合酒』

「ぼんぼんカモカ! = 咬(か)もか」と言って、太い鰹節2本を鰹節屋の子どもからせしめる場面が、この噺に出てくる。その鰹節の生産量が最も多いところはどこでしょうか?

皆様のご想像通り、それは鹿児島県です。そして、2位が静岡、3位が高知県。

では、その消費量が一番多いところはどこでしょうか。それは何と沖縄県で、年間64.9袋。次いで高知県の22.3袋、最下位は広島

県の4.8袋です。沖縄は昔からカツオ漁が盛んで、いろんな出汁(だし)にカツオは使われました。有名な「かちゅー湯」は鰹節の汁物料理。お椀にたっぷり



▲隠し芸で「カモカの顔」の仕草を見せる五代目笑福亭松鶴師匠

の鰹節と味噌を入れ、お湯を注ぐだけという簡単なスープなんだそうです。

#### 5、桂文太『平兵衛野盗伝奇』

桂文太さんが創作した「贗作・芝居噺」の1つ。都を荒らし回っていた盗賊・平兵衛と鬼夜叉の親子。鬼夜叉は捕まり、首は獄門にかけられた。その脇には「吹雪丸」という名笛が置かれた。この笛を吹けば、鬼夜叉がよみがえってくるという。

笛を巡って様々な人物が登場する。

考古学では発掘された断片で、弥生時代の壺を復元することがある。それをヒントに文太さんは、おどろおどろしい伝奇噺をつなぎ合わせて、一遍の物語をしたてた。ハメモノもふんだんに入る。「落語を聞いていて、一幕の芝居を見たような気分になっていただけたら」と文太さん。

#### 【本公演の担当】

- ◇三味線:花登 益子
- ◇ 笛 :桂 文太
- ◇鳴り物:桂 お雀
- ◇お茶子:山本 英美
- ◇名びら:橘 右佐喜

#### 次回弥生席ご案内

2021年3月20日(土)

- 1、時うどんー桂文太(五代目文枝門下)
- 2、狸賽 ー桂小きん  
(四代 小文枝門下)
- 3、胴乱の幸助ー桂文太  
(仲入り)
- 4、お忘れ物承り所ー桂三ノ助  
(六代文枝門下)
- 5、胴斬りー桂文太

#### 「田辺寄席」世話人会

〒546-0044

大阪市東住吉区北田辺

1丁目10番16号401

◇電話070(5022)1772(堀野方)

◇メール

tanabeyose@yahoo.co.jp

◇HP「田辺寄席」で検索

# 会場

桃ヶ池公園市民活動センター(旧・阿倍野青年センター)

〒545-0012 大阪市阿倍野区桃ヶ池町1の13の4

電話&ファクス 06-6628-9046 090-6374-3536